キズナエピソード

百波瀬 ここあ　6話

//ADV形式開始

//ここあの家・リビング

［とびお］

「それじゃあ、俺はそろそろ帰りますね」

［ここあの父］

「ありがとう。今日は君と話せて良かったよ」

［とびお］

ここあの父と一通り話したあとで、

俺は帰る旨を伝えて席を立つ。

［ここあ］

「あ、待ってとびおっち。私送ってくよ」

［とびお］

俺に合わせて、ここあが立ち上がる。

［和哉］

「ねえ大人の話終わった～？

あれ！　とびおもう帰んのかよー！」

［達哉］

「俺たちと遊べよー！

元気になったから、卍レンジャーごっこしようぜー！

お姉ちゃんはマジ卍ピンクね！」

［ここあの父］

「こらこら。

とびおお兄さんはもう帰るから、

今日はお父さんが遊んでやるぞ。」

［ここあの父］

「ここあもたまには家のことを忘れて、

とびおくんと外でゆっくりしてきなさい。

なんなら今日は帰ってこなくてもいいぞ。なーんつって――」

［ここあ］

「だってさ、とびお。

お父さんの許しも貰ったし、今夜は一緒にいよっか？」

［とびお］

ここあがウィンクをして、俺の腕に手を回す。

冗談を飛ばしていたここあの父が、

やや引きつった顔になった。

［ここあの父］

「え、いや、あのなここあ、

違うぞ今のは冗談で――」

［ここあ］

「じゃあね、お父さん、いってきまーす！」

//ここあ退場

［ここあの父］

「お、おいここあ……？

ささ、さすがに晩御飯には帰るよな……？

ここあ……、ここあー！」

［和哉］

「ねえねえ早くー！

父ちゃん敵モンスターのクソダサスやるんだろー！」

//暗転

//【R18版の場合、ここに挿入】

//ここあの家・リビング

［とびお］

あれから数日後。

今日も俺はここあの家で、和哉と達哉の面倒を見ていた。

［和哉＆達哉］

「とびおー！　今度は俺らを一緒に持ち上げて―！

必殺ダブルキックやるんだ！」

［とびお］

「いや、お前ら要求の難度がどんどん上がってないか？

って無理やり掴まるな！　重いから！　ぬおー！」

［とびお］

俺は根性で和哉と達哉を二人同時に持ち上げ、

投げ飛ばすように倒れ込む。

［ここあの父］

「ただいまー。帰ったぞー！」

［とびお］

ちょうどその時、リビングにここあの父家入ってきた。

［和哉＆達哉］

「必殺・ダブルキック！」

［ここあの父］

「ぐはっ!?」

［とびお］

「あ、すいません！　大丈夫でしたか!?」

［ここあの父］

「う、うむ……大丈夫だ。とびおくん、来てたんだね。

2人と遊んでくれてありがとう」

［とびお］

「いえいえ、こちらこそお邪魔してます。

ここあさんは今、買い物に行ってますよ」

［ここあの父］

「そうか……まぁ、ちょうどいい。

君とはちょっといろいろ話したいことがあってね」

［とびお］

ここあの父はそう言うと、少し怖い笑顔を浮かべた。

［ここあの父］

「君、結局あの日は本当にここあを帰さなかったな。

……ここあとどう過ごしていていたのかな？」

［とびお］

「え？　いや、はは、すいません。

ちょっとまぁ、いろいろありまして――」

［ここあの父］

「まさか、一線を越えるようなマネはしていないね……？」

［とびお］

「も、もちろんですよ！」

［ここあの父］

「……ゴホン、いいか、そういうのはさすがにまだ早すぎる。」

一緒に酒でも飲んで、

仕事の話の一つも出来るようになるまでは……な？」

［とびお］

「……わかりました。精進します」

［とびお］

俺は作り笑いを浮かべると、

ここあの父も合わせて笑ってくれた。

［ここあの父］

「でもやっぱり、すまん。

一発殴らせてもらってもいいか？」

［とびお］

「あはは……。目が笑ってないですよ、お父さん」

［ここあの父］

「和哉！　達哉！

父ちゃんの宿敵怪人トビオダスが現れたぞ！

一緒に倒すんだ！」

［和哉＆達哉］

「てやー！　必殺・ダブルキーック！」

［とびお］

「ぐわーっ！」

［ここあ］

「ただいまー。って、何してるのみんな!?」

=========================スチルカットシーンB開始=========================

［とびお］

「ここあ……！　た、助け――」

［ここあ］

「おもしろそう！　私も混ざるにゃ～！」

［とびお］

「ぬわーっ！」

=========================スチルカットシーンB終了=========================

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//白い部屋

そこで意識が覚醒した。

「……あんな可能性もあったのかもしれない」

俺はひとりごちて、白い壁を眺める。

大きなスクリーンに、ここあとの思い出を幻視する。

//次ページ

二人の弟の母親として愛にあふれるここあ。

俺をリードしてくれる先輩としてのここあ。

みんなのために自分を押さえ込んでしまうここあ。

そして、天真爛漫に楽しさを求めるここあ。

……そのどれもが愛しかった。

//次ページ

自然と胸の奥から気持ちが沸き起こってくる。

ここあを守りたい。

俺は心にそう誓った。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//6話END